

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	福岡療育支援センターいちばん星新宮 児童発達支援センター おほしさま園		
○保護者評価実施期間	令和6年10月1日		～ 令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51	(回答者数) 43
○従業者評価実施期間	令和6年10月1日		～ 令和6年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	⑦子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	・集団療育の様子、送迎や面談での保護者の様子を職員間で共有し、毎日子どもや保護者の状態を把握するよう努めている。 ・現状の評価と次回の目標について、モニタリングにて保護者と丁寧に情報共有を行ったうえで設定することを意識している。	・情報共有は細かくしているが、時間を有効に使う為に、チェックリストの使用、記録用紙の改善が必要。
2	⑩事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	・月1回の親子療育、送迎時のやり取り、LINEでのやりとりなどで、話しやすい関係づくりを意識している。 ・部署内で細かく情報共有し、どの職員に相談しても同じ方向を向いた返答があることも安心につながっていると思う。	・職員が研修に出て知識を更新する。 ・保護者と直接接する機会が少ないご家庭とどのように丁寧にやり取りを行うかを検討する必要がある。LINEやお便り、電話等でやり取りを積極的に取ることを続けていく。
3	⑨子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	・連絡帳、LINE、親子療育など相談の場を確保するように努めている。 ・保護者から相談があったときに、その日のうちに部署で情報共有をし、必要に応じてセラピスト等にも相談することで、迅速かつ適切に対応することを意識している。	・親子の後のおひさまカフェなど、保護者来所時に話をする機会を積極的に設けていく。 ・父親参加の行事も続けていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	④生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	・療育室の冷房が効かない、エアコンが古くてひどく乾燥する、トイレの床が冷たいなどで、施設の課題がある。 ・準備物の量に合った棚が不足している。 ・配置人数で安全に遊ぶために室内園庭が欲しい。	・冷房が効くよう、廊下の間にカーテンをつけた。 ・必要なパーテーションを作成する。 ・療育室をどう有効に使うか検討を続ける。
2	⑪保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	・コロナ禍で様々な行事が縮小されていたため、地域との交流イベントを開く必要性について、職員間で十分に共有されていなかった。	・交流を再開するならば、小規模から。 ・地域の幼稚園や保育園の先生との関係づくりや、交流の相談、地域の先生が療育を体験するなどを考えていきたい。 ・地域のボランティアなどから受け入れを増やしていく。
3	⑫定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	・活動概要や行事は毎月のお知らせを出している。連絡体制もしっかり取っている。 ・SNSを承認制にしているため、登録していない方もおられる。 ・個人情報保護の観点などから、写真公開を希望されない方も少なくないため、通信の内容が限られる。	・毎月のお便りにSNSのお知らせを載せる。 ・はぐでお便りを配信するようになると、SNS登録へのハードルが下がりそう。